

- 1 教材名 MOMOTARO (Original Material)
関連: Lesson 5 『日本の伝統芸能』 (MY WAY English Expression II/三省堂)

2 目標

- グループで、互いに協力し合いながら感情豊かに表現しようとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 物語の展開にあわせて表現の方法を工夫しながら、英語劇を、感情を込めて聴衆に伝えることができる。
(外国語表現の能力)
- 英語のナレーションや台詞を読んだり、ALT との質疑応答を通して、台本を理解することができる。
(外国語理解の能力)
- 受動態について理解するとともに、動物の鳴き声に関する言語間の違いを理解している。
(言語や文化についての知識・理解)

3 生徒観および教材観

本学級には、英語を「話す」ことと、自分に関することを口にするものの2つを苦手としている生徒が多い。生徒は、扱う表現をノートにまとめる作業は意欲的に行うものの、それを用いた言語活動(「話す」活動)になると消極的な姿勢を見せることがある。その理由について、生徒と話す中で、過去の授業での失敗や自分の発言を否定された経験などが主な原因であることがわかった。これまでの音読活動で、ナレーターとしての「語り」について一定の成果を得ることができた。しかし自分の意図や気持ちに合わせた音声表現の点で、「物語の登場人物になりきって読む」という点に課題を残している。そこで、劇という形式で、自分の言葉ではなく登場人物の言葉に自分の感情を重ねることで、こうした課題を克服できるようにしたいと考える。

上述の2つの障壁を取り除くために工夫するとともに、その工夫によって生徒が英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することをめざし、前単元(Lesson 5 日本の伝統芸能)終了後の言語活動として英語劇を行う。題材は、生徒にとってなじみのある桃太郎を用い、できるだけ平易な英語を用いた英訳版『MOMOTARO』を作成する。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、友達同士で相談しながら活動できるようにする。実際に口に出して練習を行う際にはALTも参加し、聞き手意識や目的意識をもった活動とする。またクラス劇という特性を活かし、即興で英語を話すことができたり、大きな声で活動できたりするような雰囲気づくり、環境づくりを行う。

4 具体的な手立て

(1) 題材の設定

日本の昔話である桃太郎の英語版『MOMOTARO』を作成する。桃太郎は、生徒が物語の展開を理解しており、英語としてわからない部分があったとしても推測によって内容を理解し、台本を読み進めることができる。その中で生徒が英語の文構造や表現に対する理解を深め、生き生きと英語を表現することができることをねらう。台本作成は、既習の表現であること、理解しやすい平易な表現であること、内容が理解しやすく「聞いたり読んだりしたこと」の理解に偏らないものであるとする。また前単元では受動態を学習している。生徒が実際の使用場面を想起できる、そして既習事項を網羅的に扱うことができる、以上2点の一助とする。

(2) 言語活動の設定

本学級を4つの班に編成し、役割分担を生徒が決める。授業中は基本的にグループワークとし、各グループで問題解決を図る。教員は机間指導による支援を中心に行い、全体で確認する必要がある質問の場合には全体に向けて説明を行う。

(3) ALT の活用

「コミュニケーションを図ろうとする態度」の一つとして、「伝わるように話す」という態度が挙げられる。その態度を育成するために、ALT を活用し、発音指導の場を設定する。また意図的な「使用場面」として仮名ALTと英語を話す必要のある(話さなければならぬ)状況をつくり出すことも、生徒が「伝わるように話そうとする態度」の育成に寄与すると考える。

(4) 非言語表現の活用

英語表現の授業においては、非言語表現も重要な要素と考えている。劇では、たとえ英語が流暢でない場合であっても、動きが内容を正しく聴衆に伝えるための助けとなる。生徒には劇を作り上げる過程の中で適

切な動きをつけることにも取り組ませ、表情豊かに英語を話すことができるようにしていきたい。

(5) 発表会の実施

発表会は、教室ではなく広い場所を設定したり、他の教員にも声かけを行い、なるべく多くの聴衆を集めることで、非日常的な雰囲気をつくる。校長のあいさつをはじめ、英語科ではない教員が積極的に英語を話すことで、英語を話すことへの興味関心を深める機会となるような工夫をする。

5 指導と評価の計画（全8時間扱い）

時	学習内容・活動等	関	表	理	知	評価規準（評価方法）
1	・台本を読み、内容をグループで話し合い、理解する。 ・役割分担を行う			◎		・英語のナレーションや台詞を読んで、台本を理解できたか。 （観察・振り返りカード）
2	・ALT の英語を聞き、正しい発音やリズム、イントネーションを理解する。 ・ALT との質疑応答を通して、台本の理解を深める。			○	◎	・正しい発音やリズム、イントネーションを理解しているか。 ・ALT との質疑応答を通して、台本の理解を深められたか。 （観察・振り返りカード）
3	・班ごとに読み合わせを行う。 ・台詞のつながりを意識し、台詞に感情を込める。		◎			・それぞれの台詞のもつ文脈上の位置づけを理解し、感情豊かに英語を話すことができる。 （観察・振り返りカード）
4	・班ごとに読み合わせを行う。 ・台本に頼らず、共演者と助け合いながら劇を進行する。	○	◎			・グループで互いに協力し合いながら、感情豊かに表現しようとしているか。 ・物語の展開に合わせて表現の方法を工夫して表現することができたか。 （観察・振り返りカード）
5	・読み合わせをしながら、舞台上での動きを工夫する。	○	◎			・グループで互いに協力し合いながら、感情豊かに表現しようとしているか。 ・物語の展開に合わせて動きを工夫しながら表現することができたか。 （観察・振り返りカード）
6	・リハーサルを行う。	○	◎			・グループで互いに協力し合いながら、感情豊かに表現しようとしているか。 ・物語の展開に合わせて十分な声の大きさを、感情豊かに表現することができたか。 （観察・振り返りカード）
7 本時	・ALT とリハーサルを行う。	○	◎			・グループで互いに協力し合いながら感情豊かに表現しようとしているか。 ・聴衆に伝わるように適切な声量、間やテンポ、身振りなど非言語表現を工夫しながら表現することができたか。 （観察・振り返りカード）
8	・発表会を実施する。	○	◎			・グループで互いに協力し合いながら感情豊かに表現しようとしているか。 ・物語の展開に合わせて表現の方法を工夫しながら、英語劇を感情を込めて聴衆に伝えることができたか。（観察・振り返りカード）

※「言語や文化についての知識・理解」は、後日実施する定期試験においても評価を行う。

6 本時の指導（第7時）

(1) 目標

- グループで互いに協力し合いながら感情豊かに表現しようとしているか。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 聴衆に伝わるように適切な声量、間やテンポ、身振りなど非言語表現を工夫しながら表現することができる。
(外国語表現の能力)

(2) 展開

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (◎・○)
導入 10分	1. あいさつ 2. 単語・表現の確認 (台本内の表現) ・ゲーム形式で単語・表現を確認する。 ・自分の役割以外のものについても理解・表現できるようにする。	・簡単な会話でウォームアップとする。 ・共演者の台詞も理解・表現できるようにする。 ・劇を行う上で、物語全体の流れや表現を意識するように促す。 ・タイマーを用いて時間を区切り、テンポをつくる。
展開 I 20分	3. 発表会のリハーサルを行う。(2グループ) ・指名されたグループが本番同様に発表する。 発表者以外は、評価シートを書きながら観る。 【発表時の約束】 ・適切な声量や間、テンポで進行する。 ・台本を持たず、聴衆を意識して前を向き、顔を上げる。 ・自分と自分以外のメンバーの出番を理解し、大きな声で広く舞台をつかえるようにする。 ・台詞を忘れてしまっても、そこで止まらずに類似の表現で話を展開させる。	・台詞が入っていない生徒も、できるだけ台本を持たないように促す。 ・舞台上の表現以外は、聴衆に背を向けずに演じるように伝える。 ・台詞につまったら、相互に協力し合うように伝える。 ・パーティションで空間を区切り、出入りも工夫させる。
展開 II 12分	4. 発表を受け、感じたことを話し合う。 1) 発表の感想、よかったところや気になったところを発表する。 2) ALT が講評する。 ・よかった点を具体的に知る。 ・さらに工夫・改善の余地がある点を理解する。 ・発表していない班は、ALT からのコメントを自分たちの発表に活かすように聞く。 3) 各グループの同じ役割の生徒同士で集まり、よりよい表現の方法を話し合う。	・批判にならないよう、よかった点を中心に発表させる。 ・ALT は、日本の物語を知らない立場として講評する。 ・表現の方法を比較させ、よりよい発表につなげるよう支援する。ただし自分の意見を曲げて友達の意見に合わせすぎることのないように伝える。
終末 8分	5. 振り返りカードを記入し、自己評価を行う。 6. 連絡・あいさつ	・次時の発表会について連絡を行い、発表に向けて意欲を高める。